

2017年2月10日

## 2016年ACL研究報告

エリック・ローラン氏の来日は日程の都合で果たせなかったこと、さらには三島関連の論文を日仏両語ですでに3本執筆していたため、他の著者を検討することにしたが、研究対象の選定には難航した。日仏両国に知られ、三島が評価しており、かつ三島とほぼ同世代であることが条件だった。また、パリ連続テロ殺傷事件の実行犯が「カミカゼ」と欧米のプレスで紹介されていたことも影響して、特攻経験のある作家に絞ったところ、島尾敏雄(1917-1986)が浮上してきたため、島尾論を一年かけて準備した。それまでかなりの著者の著作を購入したため、ACL助成金はこれにすべて充てられた。

\*

島尾敏雄は、息子の島尾伸三、孫娘のしまおまほ、また妻の島尾ミホもアレクサンドル・ソクーロフの映画(『ドルチェ 優しく』)に出演しており、世代を超えたトラウマを調べるうえでも興味深いと思われた。1990年の『死の棘』が小栗康平によって映画化されて、カンヌ映画祭でグランプリを受賞していること、さらに生誕100年となることもあり、文芸誌を中心に話題になることも期待しての決定だったが、あまり話題になることもなく、吉本隆明の評伝が出たあとはそれほど研究の蓄積もなく、研究は大変だった。

研究結果は、「精神分析と精神分析の歴史の研究団体」の第18回国際学会にて単独で口頭発表した。タイトルは次のとおり。Toshio Shimaō : De l'expérience de Kamikaze à celle de "Lituraterre". この発表は内容をかなり修正したのち、De l'expérience de kamikaze à celle d'une « lituraterre » : Toshio Shimaō として *Savoirs et clinique* 誌に掲載された。